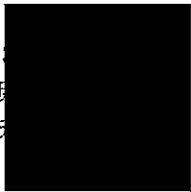


厚生労働大臣 殿

東京都板橋区大谷口上町  
日本大学医学部附属板橋  
病院長 澤



日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	160.5人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方式及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職 種	常勤	非常勤	合計	職 種	員数	職 種	員数
医 師	406人	52.4人	458.4人	看護業務補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	4.6人	11.6人	理学療法士	11人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師 85人
薬 剤 師	44人	0.2人	44.2人	作業療法士	3人		衛生検査技師 0人
保 健 師	52人	0人	52人	視能訓練士	5人		そ の 他 0人
助 産 師	30人	0.8人	30.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	700人	34.4人	734.4人	臨床工学技士	20人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	7人	0人	7人	栄 養 士	4人	その他の技術者	0人
歯科衛生士	2人	2.6人	4.6人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	86人
管理栄養士	13人	0人	13人	診療放射線技師	62人	そ の 他 の 職 員	33人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	816.1人	2.5人	818.6人
1日当たり平均外来患者数	2194.7人	59.8人	2254.5人
1日当たり平均調剤件数	外来分：16.6剤 入院分：814.7剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療（心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査（産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	30人
インプラント義歯（顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯で咀嚼機能の回復が困難なものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	8人
顎顔面補綴（腫瘍手術、外傷及び炎症その他原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	5人
顎関節症の補綴学的治療（顎関節症（顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円盤の断裂を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法（神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法（歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術（内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定（白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法（手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
CTガイド下気管支鏡検査（肺腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断（アンチトロピン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロピンⅢ欠乏症、先天性ヘリコバクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断（頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	2人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん（根治度Cの胃がんを除く。）、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断（子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝部分切除術（肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	1人
悪性腫瘍に対する陽子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術（角膜ジストロフィー又は帯状角膜編成に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
成長障害のDNA診断（特発性低身長症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術（内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術（主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
声帯内自家側頭筋移植術（一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法（閉塞性動脈硬化症又は又はバージャー病（従来の治療法に抵抗性のあるもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。）に係るものに	有・ <input type="radio"/> 無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断（高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
鏡視下肩峰下腔除圧術（透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	10人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
神経変性疾患のDNA診断（ハンチントン舞踏病，脊髄小脳変性症，球脊髄性筋萎縮症，家族性筋萎縮性側索硬化症，家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経性疾患に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	14人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術（再発翼状片，角膜上皮欠損（角膜移植によるものを含む。），角膜穿孔，角膜化学腐食，角膜癒痕，瞼球癒着（スティーブンス・ジョンソン症候群，眼類天疱瘡，熱・化学外傷癒痕その他重症の癒痕性角結膜疾患を含む。），結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	2人
重粒子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術（原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の侵襲的診断（糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療（腰椎椎間板ヘルニア，腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛（保存治療に抵抗性のものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断（BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症，反復若しくは難治である場合に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術（インスリノーマ，脾動脈瘤，粘液性嚢胞腫瘍，その他膵良性腫瘍に係る膵体尾部又は核出術に限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断（マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断（急性期又は慢性期のQ熱診断に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	16人
エキシマレーザー冠動脈形成術（経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。）による治療が困難なもの，慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
活性化Tリンパ球移入療法（原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術（膀胱尿管逆流性（国際分類グレードVの逆流症を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術（泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植（HLA適合ドナーがないための造血幹細胞移植が受けられない小児のがん，難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術（頸椎椎間板ヘルニア（画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって，神経根症が明らかであり保存的治療に抵抗性のもの（後靭帯骨化症，脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。））に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
ケラチン病の遺伝子診断（水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャー病（重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生療法（慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャー病（従来の内科的治療又は外科的治療が向こうであるもの）に限り，三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術（双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例（妊娠十六週から二十六週に限る。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線学療法（肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	5人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断（ウイルソン病，メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療（四肢の骨折（治療のための手術中に行われるものは除く。）のうち，観血的手術を実施したもの（開放骨折又は粉碎骨折に係るものは除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ菌除去療法（ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存（骨又は靭帯の再建術であって，先天性疾患，外傷性（欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。）骨腫瘍切除後，関節固定術時若しくは人工関節置換術時（初回又は再置換術時に限る。）の広範囲骨欠損，脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術（難治性根尖性歯周病炎であって，通常の根管治療では効果が認められないものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価（骨粗鬆症，骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍搔爬術後若しくは骨髄炎搔爬術後の症状に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱水圧拡張術（間質性膀胱炎に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法（歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術（人工関節のたるみに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下直腸固定術（直腸脱に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨髄移動術による関節温存型再建（骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション（原発性肝がん，肝内胆管がん，転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍（食道がん，胃がん又は大腸がん），進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水，腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水，腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断（EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術（尿管腫瘍，膀胱腫瘍，後腹膜腫瘍，後腹膜リンパ節腫瘍（精巣がんから転移したものに限る。）又は骨盤リンパ節腫瘍（泌尿器がんからの転移したものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（白内障に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性難聴の遺伝子診断（遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。）の に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断（フェニルケトン尿症，高フェニルアラニン血症又はビオピテリン反応性フェニルケトン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断（先天性代謝異常（ライソゾーム病に限る。）に罹患する可能性が高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常（ライソゾーム病に限る。）が疑われる小児に係るものであって，酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治術（手術進行期分類 I b 期までの子宮体がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
PET遺伝子診断（甲状腺髄様癌に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3人
角膜ジストロフィ遺伝子解析（角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	10人
強度変調放射線治療（限局性の固形腫瘍（頭頸部腫瘍，前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって，原発性のものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
マクロ波子宮内膜アブレーション（機能性及び器質性過多月経（ただし，妊孕性の温存が必要な場合又は子宮膜がん，異型内膜増殖症その他悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。）であって，子宮壁圧十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異ゲナ（GEFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
光ポトグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助（ICD-10（統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件（平成二十一年総務省告示第七十六号）の「（1）疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。）においてF2（統合失調症、統合失調症型傷害及び妄想性障害）に分類される疾病及びF3（気分（感情）障害）に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者（器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術（下肢慢性静脈不全症（下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の字おっしにより根治性が期待できないものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンにより歯冠補綴（小白歯の重度の齲蝕対して全部覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（早期大腸がん（ERM（内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。）では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。）又は腺腫（EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援（骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術（頸部良性腫瘍に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術（転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
カフェイン併用化学療法（骨肉種、悪性繊維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術（プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent (MAB)治療（ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（胸部悪性腫瘍（従来の外科的治療の実施が困難なもの又は外科的治療の実施により根治性が期待できないものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（腎悪性腫瘍（従来の外科的治療の実施が困難なもの又は外科的治療の実施により根治性が期待できないものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術（手術実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視下ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法（転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫（診断の確実なものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法（一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術（特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症（NIHF）例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水が再貯留が認められるもの（妊娠二十週から三十四週未満に限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法（二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡補助下肝切除術（部分切除及び外側区域切除を除く。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援（前立腺がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行なっている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	47人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	13人
・多発性硬化症	76人	・ウェゲナー肉芽腫症	6人
・重症筋無力症	163人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	5人
・全身性エリテマトーデス	16人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	2人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人
・再生不良性貧血	20人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	125人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	15人	・原発性胆汁性肝硬変	0人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	265人	・重症急性膵炎	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	31人	・特発性大腿骨頭壊死症	14人
・結節性動脈周囲炎	0人	・混合性結合組織病	37人
・潰瘍性大腸炎	220人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	1人	・特発性間質性肺炎	364人
・ビュルガー病	0人	・網膜色素変性症	30人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	59人	・原発性肺高血圧症	17人
・クローン病	0人	・神経線維腫症	59人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	93人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	351人	・特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	15人
・アミロイドーシス	6人	・ライムゾーム病（ファブリー〔Fabry〕病）含む	1人
・後縦靭帯骨化症	934人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	1人		

（注） 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること

## 3 病院・臨床検査の部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年に9回 開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 75例 , 剖検率 12.8%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
角膜における細胞外ドメインシエディングを紹介した病態生理機構の解明	崎元暢	眼科	117万円	補 科学研究費・若手研究(B)
進行性腎障害に対するPIポリアミドによる遺伝子治療の開発	松本統一	腎臓・高血圧・内分泌内科	561万円	補 日本大学学術助成金(総合研究)
ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求	高橋元一郎	放射線科	—	補 平成20年度日本大学学術研究戦略プロジェクト戦略推進事業ユニバース型
電子線利用研究施設の自由電子レーザー(FEL)とパラメトリックX線(PXR)の高度利用による医学生物学的研究	高橋元一郎、奥畑好孝、齋藤勉	放射線科	60万円	補 日本大学量子科学研究所平成20年度共同研究
「新しいTIPS用modified Covered stentの開発」	高橋元一郎、古橋哲、吉信尚、阿部克己	放射線科	190万円	補 平成20年度科学研究費補助金基盤研究(C)
定位放射線治療による予後改善に関する研究	齋藤勉	放射線科	47.4万円	補 平成20年度厚生労働省がん臨床(平岡班)
頭頸部悪性腫瘍患者の放射線・化学療法に伴う味覚障害と舌における味覚受容体遺伝子発現の変化	田中真琴	耳鼻咽喉科	20万	補 日本大学学術助成金(総合研究)
HIV 垂直感染における胎盤関門と脱落膜大顆粒リンパ球の役割	研究代表者：早川智、分担：根本則道	病理部	1200万円	補 科学研究費基盤研究B(平成17年度～平成20年度)
プライマリ・ケアに必要な緊急処置の教育効果の向上—人形を用いた気道管理法の実践	木下浩作	救命救急センター	106万円	補 日本大学学術研究助成金
高温環境下での血管内皮細胞傷害伸展因子—高グルコース濃度の影響	木下浩作	救命救急センター	143万円	補 科学研究費補助金基盤研究(C)
災害・重大健康危機の発生時・発生後の対応体制及び健康被害抑止策に関する研究	木下浩作	救命救急センター	50万円	補 厚生労働科学研究費補助金
内皮細胞の低温下LPS刺激培養での炎症性サイトカインmRNAの安定性の経時的変化	櫻井淳	救命救急センター	100万円	補 科学研究費補助金基盤研究(C)

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
バソプレシンが血管内皮細胞へ与える影響	向山剛生	救命救急センター	91万円	補	若手研究 (B)
高血圧症における性差の分子遺伝学的背景の解明 - エストロゲン関連遺伝子群の役割 -	中山智祥	臨床検査医学科	130万円	補	学術振興会科研費
日本内分泌学会研究奨励賞 生活習慣病の疾患感受性遺伝子検索 - 本態性高血圧症、脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病などの原因変異同定 -	中山智祥	臨床検査医学科	20万円	補	社団法人 日本内分泌学会
慢性腎不全(透析療法未施行)・維持血液透析患者における免疫能の検討-血清マンノース結合レクチンの形態と役割を中心に-	里村厚司	臨床検査医学科	100万円	補	平成 20 年度日本大学医学部 (創立 50 周年記念研究奨励金 (共同研究))
維持血液透析患者における血清マンノース結合レクチンの形態と役割	里村厚司	臨床検査医学科	79万円	補	平成 20 年度日本大学学術研究助成金
健康日本 21 こころの健康づくりの目標達成のための休養・睡眠のあり方に関する根拠に基づく研究	内山真	精神神経科	100万円	補	厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)
精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の適正化に関する研究	内山真	精神神経科	120万円	補	厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)
精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の適正化に関する研究	内山真	精神神経科	120万円	補	厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)
候補遺伝子と統合失調症の相関と、それらの遺伝子と探索眼球運動や陰性症状との関係	高橋栄	精神神経科	65万円	補	科学研究費補助金 (基盤研究 (C))
がん患者の支持療法・緩和療法の技術の向上及びその評価に関する研究	金野倫子	精神神経科	100万円	補	厚生労働科学研究費補助金
呼吸不全に関する調査研究	赤柴恒人	睡眠センター	120万円	補	厚生労働省 科学研究費
健康づくりのための休養や睡眠のあり方に関する研究	赤柴恒人	睡眠センター	120万円	補	厚生労働省 科学研究費

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
小胞体ストレス応答の破綻による膵β細胞障害とインスリン抵抗性の分子機構	石原寿光	糖尿病・代謝内科	169万円	補	学術振興会科研費
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	吉田行弘	整形外科	75万円	補	厚生労働省 科学研究費
肺癌骨転移に対する治療前予後予測と治療戦略の確立	徳橋泰明	整形外科	100万円	補	学術研究助成金
脳卒中後遺症の分析と制御	徳橋泰明	整形外科	200万円	補	私立大学戦略的研究拠点形成支援事業
脊椎イントゥメレーションを併用した腰椎固定術後の閉経後骨粗鬆症に対する椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科	80万円	補	リリー研究助成プログラム
脊椎イントゥメレーションを併用した腰椎固定術後の閉経後骨粗鬆症に対する椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科	80万円	補	リリー研究助成プログラム
グルコサミン・ヒアルロン酸内服による自然発症関節症のマウスへの影響 (1)	龍順之助	整形外科	100万円	委	日化学工業株式会社
受動喫煙ラット椎間板修復に関する分子細胞学的研究	小川剛史	整形外科	50万円	補	日本大学医学部 創立50周年記念研究奨励金
降圧治療および凝固療法の個人の特性に応じたテーラーメイド治療確立に関する研究	相馬正義	総合科 (内科担当)	50万円	補	厚生労働省 科学研究費
スフィンゴシン-1-リン酸受容体を標的とした急性肺傷害に対する治療戦略	権寧博	総合科 (内科担当)	150万円	補	科学研究費補助金 (基盤研究C)
再発小児固形腫瘍に対する塩酸ノギテカンとイホスファミド併用療法の第I/II相臨床試験	麦島秀雄	小児科	50万円	補	厚生労働省
神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化および新規診断・治療法の開発研究	麦島秀雄	小児科	60万円	補	厚生労働省
小児悪性固形腫瘍領域における体系的臨床試験に基づく適応外医薬品の臨床導入の妥当性検討に関する研究	麦島秀雄	小児科	200万円	補	厚生労働省

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
臍帯血移植における生着促進を目的とした細胞治療の開発	麦島秀雄	小児科	169万円	補	日本学術振興会
Wilms 腫瘍に対する生物学的予後因子により層別化した新規治療プロトコールの開発	麦島秀雄	小児科	30万円	補	日本学術振興会

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計 39 件

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
FEBS lett 582: 3674-3680, 2008	Collagen XVIII and corneal reinnervation following keratectomy .	Sakimoto T, Kim II, Ellenberg D, Fukai N, Jain S, Azar DT, Chang JH	眼科
Jpn J Ophthalmol 52 : 255-264, 2008	Clinical efficacy of topical nipradilol and timolol on visual field performance in normal-tension glaucoma : A multicenter, randomized, double-masked comparative study	Araie M, Shirato S, Yamazaki Y, Kitazawa Y, Ohashi Y, Niradilol-Timolol Study Group	眼科
Jpn J Ophthalmol 52 : 393-398, 2008	Upregulation of TNF receptor 1 and TNF-alpha converting enzyme during corneal wound healing	Sakimoto T, Yamada A, Kanno H, Sawa M	眼科
Retinal cases and brief reports 2 : 154-157, 2008	Indocyanine green angiographic findings of hypertensive choroidopathy	Kawashima M, Nakajima M, Kawamura A	眼科
眼科 50 : 959-964, 2008	小児の開放性眼外傷の検討	堀 眞輔, 忍田太紀, 中島正巳, 嘉村由美	眼科
眼科 50 : 1081-1084, 2008	角膜ジストロフィに対する層状角膜移植術後に不可逆性散瞳を呈した1例	大西貴子, 崎元 暢, 澤 充	眼科
眼科 50 : 1251-1255, 2008	ロックウールによる結膜異物の1例	稲田紀子, 大西貴子, 庄司 純, 澤 充	眼科
眼科 50 : 1849-1854, 2008	18歳未満児における春季カタルの特徴	渡辺純子, 庄司 純, 稲田紀子, 澤 充	眼科
眼科 50 : 1855-1859, 2008	眼瞼に発生した木村病の1例	田中久美子, 崎元 暢, 石橋生朗, 佐々木 淳, 逸見明博, 加島陽二	眼科
眼科 50 : 1973-1979, 2008	アトピー性角結膜炎症例にみられたCandida albicansによる真菌性角膜炎の2例	岡島泰彦, 稲田紀子, 澤 充	眼科
眼科 50 : 1981-1984, 2008	両眼に発症した外傷性脈絡膜破裂の1例	大西貴子, 岩田光浩, 木下浩作, 向山剛生	眼科
眼科 50 : 1855-1859, 2008	眼瞼に発生した木村病の1例	田中久美子, 石橋生朗, 佐々木 淳, 崎元暢, 古作和寛, 内山昌明, 加島陽二	眼科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科 51 : 199-204, 2009	重篤な角膜潰瘍を合併した両眼性淋菌結膜炎の成人2症例	及川亜希, 稲田紀子, 庄司 純, 澤 充	眼科
眼科 51:185-189, 2009	中心窩下に発育した孤立性脈結膜血管腫の1例	大澤 さやか, 中島正巳	眼科
眼科 51 : 79-85, 2009	多彩な眼所見を示した妊娠高血圧症候群の1例	中島正巳, 川嶋美和子, 嘉村由美, 川村昭之	眼科
眼科 51 : 71-76, 2009	正常者における Swedish interactive thresholding algorithm を用いた short-wavelength automated perimetry の臨床評価	岡島泰彦, 山崎芳夫	眼科
Surgery Today 2008:38:62-4	Surgical treatment of an aorto-esophageal fistula caused by stent implantation for esophageal stenosis: report of a case.	Uhosawa S, et al	心臓外科
Circ. J 2008 72:335-6	First Case Report in Japan of Left Ventricular Pacing via a Coronary Vein in a Patient With Mechanical Tricuspid Valva.	Yoda M, et al	心臓外科
総合臨床 2008;57:327-31	虚血性心疾患治療の新時代—外科的治療—	秦光賢	心臓外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 2008;14:25-28	Vascular Protecting Effect of Angiotensin Receptor Blocker(ARB) on the Radial Artery Graft.	HATA M, et al	心臓外科
Thorac Cardiovasc Surg 2008;56:274-7	Proton pump inhibitors may increase the risk of delayed bleeding complications after open heart surgery if used concomitantly with warfarin	HATA M, et al	心臓外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2008;135:1042-1046	Should emergency surgical intervention be performed for an octogenarian with type A acute aortic dissection?	HATA M, et al	心臓外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2008;136:489-493	Less invasive quick replacement for octogenarians with type A acute aortic dissection	HATA M, et al	心臓外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器の臨床 2008;11:722-728	開心術後ワルファリンカリウムとプロトンポンプ阻害薬の相互作用による遅発性出血性合併症リスクに関する検討	秦光賢 他	心臓外科
Circ J 2009;73(1):69-72	Outcom of less invasive proximal arch rplacement with moderate hypothermic circulatory arrest followed by sggressive rapid re-warming in emergency surgery for type A acute aortic dissection	HATA M, et al	心臓外科
日大医誌 2009;68-6-10	スタンフォードA型旧制大動脈解離診察の実際	秦光賢 他	心臓外科
CLINICIAN 2009;No. 576Vol156:87-93	Warfarin と PPI の相互作用は？	秦光賢	心臓外科
心血管画像MOOK 2009;2:96-99	積極的脂質コントロール療法による冠動脈バイパス術後大動脈静脈病変予防効果	秦光賢 他	心臓外科
Surgery Today 2009;39:353-5	Less invasive quick replacement of the proximal arch with aggressive rapid rewarming for type A acute aortic dissection	HATA M, et al	心臓外科
J Cardiac Surg 2008:Epub4	Successful treatment of fulminat myocaeditis with mechanical circulatory support	Furukawa N, et al	心臓外科
Int J Cardiol 2008:Epub	Reoperation for aortic valve stenosis due severe calcification of the bioprosthetic valvae after modified Bentall operation Takayasu arteritis.	Furukawa N, et al	心臓外科
J Cardiac Surg 2008;23:349-50	A Simple and Safe Operation Method for Brachiocephalic Artery Aneurysms	Yoda M, et al	心臓外科
日本脈管学会誌2007;47:615-619	B型旧制大動脈解離に対するクリニカルパスの効果-早期離床と肺酸化障害の予防効果-	新野哲也 他	心臓外科
Aftif Organs 2006;30:962-965	Late results of gelatin-resorcín-formalin glue-aided in acute type A aortic dissection	Shiono M, et al	心臓外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Today 2008;38(9):773-7	Mechanical circulatory support for fulminant myocarditis.	Sezai A, et al	心臓外科
呼吸と循環 2007;55:1049-1054	B型旧制大動脈瘤嚢腫に対するクリニカルパスの妥当性についての検討	新野哲也 他	心臓外科
Circ J 2009;73:264-268	Optimal clinical pathway for the patient with type B acute aortic dissection	Nino T, et al	心臓外科
Circ J 2008;72:1022-4	First report of Bartonella quinatana endocarditis in Japan.	Yoda T, et al	心臓外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2009;137:895-900	Study of the factors related to atrial fibrillation after coronary artery bypass grafting: a search for a marker to predict the occurrence of atrial fibrillation before surgical intervention.	Sezai A	心臓外科
Surgery Today 2009;39:300-5	A transesophageal echocardiographic and cine-fluoroscopic valva opening evaluation of an ATS prosthetic	Sezai A	心臓外科
Thorac Cardiovasc Surg 2009;309-314	Pulmonary embolism with myomatous erthroctosis syndrome and extreme obesity	Uhosawa S	心臓外科
Clinical Nephrology 71(2):110-7. 2009	The role of complement activation, detected by urinary C5b-9 and urinary factor H, in the excretion of urinary albumin in cisplatin nephropathy.	松本統一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Molecular Genetic Metabolism 96(3):145-147, 2009	A haplotype of the CYP4F2 gene associated with myocardial infarction in Japanese men.	松本統一	腎臓・高血圧・内分泌内科
International Journal of Molecular Medicine 23(3):313-20, 2009	Atherogenic dyslipidemia and altered hepatic gene expression in SHRSP, Z-Leprfa/1zmDmcr rats.	松本統一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Journal of Hypertension 27(3):508-16, 2009	A novel gene silencer, pyrrole-imidazole polyamide targeting human lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 gene improves endothelial cell function.	松本統一	腎臓・高血圧・内分泌内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主たるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 16(3)201-6, 2009	Association of SLC6A9 Gene Variants with Human Essential Hypertension.	松本絃一	腎臓・高血圧・内分泌内科
The Open Clinical Chemistry Journal 2009(2)31-36, 2009	Change of Glomerular Hemodynamics in Patients with Advanced Chronic Kidney Disease after Cilnidipine Therapy.	松本絃一	腎臓・高血圧・内分泌内科
J. Clin Neurophysiol	Comprison of guantitave EEGs between parkinson disease and age-adgrsted normal control	Serizawa K, Kanei S, et al	神経内科
Mov Disord	Executive dysfunction using behaviorval assessment of the dysexecutive syrdvime in parkinson disease	Kanei S, Hara K, et al	神経内科
呼吸器疾患診療マニュアル 気管支動脈撮影（工藤翔二 監修）	気管支動脈撮影（工藤翔二 監修）	阿部克己	放射線科
臨床放射線 53 巻別冊	臨床医の書いた放射線生物学	齋藤勉	放射線科
化学放射線療法プラクティカルガイド（北原規 相羽恵介 編）	各論4. 乳がん	河守次郎, 関口建次	放射線科
J Digit Imaging. [Epub ahead of print] Oct 22, 2008	Computer-Assisted System for Diagnostic Workstations: Automated Bone Labeling for CT Images.	Furuhashi S 他	放射線科
看護技術	代表的ながんに対する放射線療法	河守次郎	放射線科
日大医学雑誌	血管腫・血管奇形の画像診断と血管内治療	古橋哲 他	放射線科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌	血管腫・血管奇形の画像診断と血管内治療	古橋哲 他	放射線科
月刊新医療	放射線科医から見たAiの光と影 克服すべき点も含めて	高橋元一郎	放射線科
日大医学雑誌	腫瘍診断におけるPETの現状と進歩	矢野希世志 他	放射線科
Cancer	Tongve cancer patients have a high frequency of allelic loss at the von Hippel-Lindan gene and other loci on 3P	Asakawa T	耳鼻咽喉科
The Jourual of Laryugology	Causative factors of taste disorders and therapeutic effects of Zinc agents among aged people	Ikeda M	耳鼻咽喉科
Nihon Univ. J Med	Nangement of acute sensorneral kearing loss caused by labyrinthitis due to middle ear cholesteatoma	Ikeda M	耳鼻咽喉科
宇宙般空環境医学	7日間ベッドレスト実験における視運動性眼振および後眼振の適応運動	野村泰之	耳鼻咽喉科
Facial N Jap	柳原法の麻痺評価に顔面神経麻痺の後遺症程度を反映させる試み	岸博行	耳鼻咽喉科
Virchows Archiv. 452: 469-470, 2008	Mcl-1, an anti-apoptotic Bcl-2 family member, essentially overlaps with nsulin-producing cells in neonatal nesidioblastosis.	Sano M, Hayashi E, Murakami H, Kishimoto H, Fukuzawa R, Nemoto N	病理診断科
ACTA CYTOLOGICA 52(5):591-596, 2008	Application of Liquid-Based Cytology Preparation to Fine Needle Aspiration Cytology in Breast Cancer.	Komatsu K, Nakanishi Y, Seki T, Fuchinoue F, Amano S, Komatsu A, Sugitani M, Nemoto N	病理診断科
Biochem Biophys Res Commun. 376(4):658-64, 2008	Quantitative analysis of human tissue-specific differences in methylation.	Igarashi J, Muroi S, Kawashima H, Wang X, Shinojima Y, Kitamura E, Oinuma T, Nemoto N, SDong F, Ghosh S, Held WA, Nagase H	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biol. Pharm. Bull. 31 (3): 391-394, 2008	Treatment of Ewing's Sarcoma Using an Antisense Oligodeoxynucleotide to Regulate the Cell Cycle.	Asami S, Chin M, Shichino H, Yoshida Y, Nemoto N, Mugishima H, Suzuki T	病理診断科
Surg. Today 38: 163-165, 2008	An impending Rupture of a Celiac Artery Aneurysm in a Patient with Bechet's Disease-Extra-Anatomic Aorto-Common Hepatic Artery Bypass: Report of a Case.	Maeda H, Umezawa H, Goshima M, Hattori T, Nakamura T, Negishi N, Oinuma T, Sugitani M, Nemoto N	病理診断科
組織細胞化学 2008 187-194(2008)	レーザーマイクロダイセクションの病理診断への応用とくに細胞診検体を中心として	根本則道、中西陽子	病理診断科
日本顕微鏡学会バイオメディカルニューマイクロスコープ分科会 BMN2009 テキスト 23-27, 2009年3月	Laser Microdissection法の原理と応用	根本則道、中西陽子	病理診断科
Acta Histochemica et Cytochemica 42(3):73-81 (2009)	Significance of System L Amino Acid Transporter 1 (LAT-1) and 4F2 Heavy Chain (4F2hc) Expression in Human Developing Intestines.	Chikara Ohno, Yoko Nakanishi, Taku Honma, et al.	病理診断科
ACTA HISTOCHEMICA ET CYTOCHEMICA, 42(3):83-88 (2009)	Two Cases of Primary Malignant Fibrous Histiocytoma of the Liver: Immunohistochemical Expression of Ezrin and Its Relationship with Prognosis	Masahiko Sugitani, Osamu Aramaki, Kentaro Kikuchi, Aleemuzzaman Sheikh, Toshinori Oinuma, Takao Mamiya, Tadatoshi Takayama and Norimichi Nemoto	病理診断科
Histopathology, 53: 742-744, 2008	Ubiquitin-positive pneumocytes are present in nonspecific interstitial pneumonia with immunohistochemical analyses.	Yamada T, Uehara K, Mizutani T, Sunagawa K, Sugita Y, Hoshi E, Kawabata Y	病理診断科
Acta Histochem. Cytochem. 42(3):83-88, 2009	Two cases of primary malignant fibrous histiocytoma of the liver: immunohistochemical expression of Ezrin and its relationship with progression	杉谷雅彦、生沼利倫	病理診断科
脊椎脊髄ジャーナル vol. 22 No. 7 P. 881	腫瘍壊死因子 Tumor necrosis factor- $\alpha$ (TNF $\alpha$ )	帯包 妃代	病理診断科
脈管学 第48巻 第5号 P. 501	乱流と層流負荷下における内皮細胞の増殖と単球接着の関連についての検討	帯包 妃代	病理診断科
Acta Histochemica et Cytochemica 2008;52:591-596	Application of liquid-based preparation to fine needle aspiration cytology in breast cancer.	Komatsu K, Komatsu A, Nakanishi Y, Seki T, Yoshino A, Fuchinoue F, Amano S, Sugitani M, Nomoto N	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Today. 2008;38:163-165	An impending rupture of a celiac artery aneurysm in a patient with Behçet's disease - Extra-anatomic aorto-common hepatic artery bypass: Report of a case.	Maeda H, Umezawa H, Goshima M, Hattori T, Nakamura T, Negishi N, Oinuma T, Sugitani M, Nemoto N	病理診断科
J Hepatobiliary Pancreat Surgery 16: 90-93, 2009	Macroscopic portal vein thrombi of liver metastasis from colorectal cancer.	Oikawa T, Takayama T, Okada S, Kano T, Sugitani M, Sakamoto M.	病理診断科
Resuscitation. 2009 Jul;80(7):755-61.	Reduced effectiveness of vasopressin in repeated doses for patients undergoing prolonged cardiopulmonary resuscitation.	Mukoyama T	救命救急センター
Environment and Building Services 122: 48-51, 2008	熱中症 ー建物内は安全か?ー	木下浩作	救命救急センター
日大医誌 68(2): 164-164, 2009	心肺蘇生のトピックス	櫻井淳	救命救急センター
日大医誌 68(3): 216-217, 2009	災害拠点病院の役割	木下浩作	救命救急センター
Endocrine 33(2):215-222, 2008	Haplotype-Based case study of human CYP4A11 gene and cerebral infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Hypertension 26(5):902-913, 2008	Association of TNFRSF4 gene polymorphisms with essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
Endocrine Journal 55(2):305-310, 2008	Case-control study of the role of the Gitelman's syndrome gene in essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
American Journal of Hypertension 21(6):691-695, 2008	Association between fatty acid binding protein 3 gene variants and essential hypertension in humans.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hypertension Research 31(8):1533-1540, 2008	Haplotype-based case-control study between human extracellular superoxide dismutase gene and essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
自律神経 45(4):153-161, 2008	中国新疆ウイグル自治区少数民族カザフ族の血圧変動とその周波数解析-Non-dipper 型高血圧症とウルトラジアン・リズム-	中山 智祥	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 31(9):1719-1726, 2008	Haplotype-Based Case-Control Study of Human CYP4F2 Gene and Essential Hypertension in Japanese Subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
American Journal of Hypertension 21(11):1216-1223, 2008	A haplotype of the CYP4F2 gene associated with cerebral infarction in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Medical Virology 80:2015-2022, 2008	Functional polymorphism of the promoter region of the prostacyclin synthase gene and severity of RSV infection in hospitalized children.	中山 智祥	臨床検査医学科
Endocrine 34(1-3):87-95, 2008	Human Uncoupling Protein 2 and 3 Genes Are Associated with Obesity in Japanese.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas 145(6): 283-292, 2008	Association of extracellular superoxide dismutase gene with cerebral infarction in women: A haplotype-based case-control study.	中山 智祥	臨床検査医学科
Molecular Genetics and Metabolism 96(3): 145-147, 2009	A haplotype of the CYP4F2 gene associated with myocardial infarction in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科
Biochemical and Biophysical Research Communications 380:548-553, 2009	Novel mutations of ABCG6 gene in Japanese patients with angioid streaks.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 16(3):201-206, 2009	Association of SLC6A9 gene variants with human essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
Medical Science Monitor in press 2009	Relationship between Haplotypes of the KCNN4 Gene and Susceptibility to Human Vascular Diseases in Japanese.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas in press 2009	The haplotype of the CACNA1B gene associated with cerebral infarction in Japanese.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Human Hypertension in press 2009	The purinergic receptor P2Y <sub>2</sub> , G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene associated with essential hypertension in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Human Hypertension in press 2009	Haplotype-based case-control study of receptor (calcitonin) activity modifying protein (RAMP) 1 gene in Cerebral Infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
Clinical Biochemistry in press 2009	Haplotype-Based Case-Control Study Between Human Aprinic/apyrmidinic Endonuclease I/Redox Effector Factor-1 Gene and Cerebral Infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hypertension Research in press 2009	Purinergic receptor P2Y, G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene is associated with cerebral infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Circulation Journal in press 2009	Association of the purinergic receptor P2Y, G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene with myocardial infarction in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科
ホルモンと臨床増刊号「内分泌ク リニカル・カンファランス」 in press 2009	同一 exon に変異を認めた compound ヘテロ接合体の Gitelman 症候群の一例。	中山 智祥	臨床検査医学科
血検と循環。メディカルレビュー 社 16(3): 258-259, 2008	循環器疾患に関与するプロスタサイクリン (PGI <sub>2</sub> ) の合成酵素遺伝子。連載「プロスタサイクリン up to date」	中山 智祥	臨床検査医学科
Arterial Stiffness 動脈壁の硬 化と老化(メジカルビュー社) 14: pp92-93, 2008	プロスタサイクリン誘導体ベラプロストナトリウムとアンジオテンシンⅡレセプターブロッカーテルミサルタンの併用は高齢高血圧脳梗塞患者の arterial stiffness の進行を防ぐ。	中山 智祥	臨床検査医学科
高血圧(上)【第4版】・日本にお ける最新の研究動向。日本臨床 in press 2009	CRLR (Calcitonin-Receptor-like Receptor) 遺伝子	中山 智祥	臨床検査医学科
中央区医師会雑誌 22: 38-49, 2009	わかりやすい遺伝子や多型の話-本態性高血圧症になりやすい遺伝要因について-	中山 智祥	臨床検査医学科
Therapeutic Apheresis and Dialysis in press 2009	Peritonitis associated with Pasteurella multocida: Molecular evidence of zoonotic etiology	里村厚司	臨床検査医学科
手術 62(1): 41-45, 2008	特集 肝切除 - 合理性の追求 尾状葉合併前区域切除	中山壽之、高山忠利	消化器外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Gastroenterology 14(5): 685-692, 2008	Surgical treatment of hepatocellular carcinoma: Evidence-based outcomes	Yamazaki S, Takayama T	消化器外科
Journal of periodontology 79(2): 348-354, 2008	Short-term effects of rhBMP-2-enhanced bone augmentation beyond the skeletal envelope within a titanium cap in rabbit calvarium.	Hasegawa Y, Sato S, Takayama T, Murai M, Suzuki N, Ito K.	消化器外科
Annals of Surgical Oncology 15(4): 972-978, 2008	Early hepatocellular carcinoma: pathology, imaging, and therapy.	Takayama T, Makuuchi M, Kojiro M, Lauwers GY, Adams RB, Wilson SR, Jang HJ, Charnsangavej C, Taouli B.	消化器外科
annals of Surgery 247(5): 766-770, 2008	Bioresorbable membrane to reduce postoperative small bowel obstruction in patients with gastric cancer : a randomized clinical trial.	Hayashi S, Takayama T, Masuda H, Kochi M, Ishii Y, Matsuda M, Yamagata M, Fujii M.	消化器外科
Journal of cancer research and clinical oncology 134(12): 1319-1323, 2008	Clinical identification of colorectal cancer patients benefiting from adjuvant uracil-tegafur (UFT): a randomized controlled trial.	Fujii M, Takayama T, Kochi M.	消化器外科
International Journal of Clinical Oncology 13(3): 201-205, 2008	Chemotherapy for advanced gastric cancer: ongoing phase III study of S-1 alone versus S-1 and docetaxel combination (JACCRO GC03 study)	Fujii M	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 69(7): 1717-1720, 2008	自然消失した進行大腸癌の1例	東風 貢, 山家広子, 海賀照夫, 大久保力, 藤井雅志, 高山忠利	消化器外科
日本臨牀 66(増刊号 5): 285-289, 2008	一胃癌: 基礎・臨床研究のアップデート— IX 治療— 現状・動向・標価— 進行中の大規模臨床試験の概要 日本ACTS-GCsudy iS-1 vs surgery alone	藤井雅志, 東風 貢, 高山忠利	消化器外科
外科 70(8): 889-892, 2008	外科医のための臨床研究講座 第4回 脱コミックオペラ— 『Lancet』から外科医への批判	中山壽之, 高山忠利	消化器外科
手術 62(1): 1199-1205, 2008	特集肝胆脾手術 術中トラブル回避法・対処法—こんなときどうする 肝実質切離の際の出血 回避と対処	檜垣時夫, 高山忠利	消化器外科
外科 70(9): 927-931, 2008	【特集 術後胆道合併症の防止とその対策】 悪性疾患 肝細胞癌に対する肝切除	大久保貴生, 高山忠利	消化器外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Transplantation 86(7): 1010-1011, 2008	Transplantation-Related Thrombotic Microangiopathy Triggered by Preemptive Therapy for Hepatitis C Virus Infection	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M	消化器外科
外科 70(12): 1355-1359, 2008	処置と小手術のコツと合併症 処置各論 浣腸および高圧浣腸	梶原崇弘、高山忠利	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreatic Surgery	Macroscopic portal vein tumor thrombi of liver metastasis from colorectal cancer.	Oikawa T, Takayama T, Okada S, Kamo T, Sugitani M, Sakanoto M.	消化器外科
癌と化学療法 35(13): 2421-2423, 2008	Cisplatin, Epirubicin, 5-Fluorouracil 併用療法 (CEF) が奏効した高齢者の胆嚢癌肝転移の1例	吉田 直、東風 貢、舟田知也、間宮孝夫、大久保力、海賀照夫、高山忠利	消化器外科
癌と化学療法 35(13): 2429-2432, 2008	FOLFOX4 療法が奏効したS状結腸癌腹膜播種転移の1例	吉田 直、東風 貢、新出 理、渡邊慶史、間宮孝夫、望月 晋、大久保貴生、高山忠利	消化器外科
Liver Transplantation 15(1): 115-116, 2009	Simplified technique for one-orifice vein reconstruction in left-lobe liver transplantation	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M	消化器外科
Journal of Infection and Chemotherapy 15(1): 34-38, 2009	Systemic use of antibiotics does not prevent postoperative infection in elective colorectal surgery: a randomized controlled trial	Sato T, Takayama T, Fujii M, Song K, Matusda M, Higaki T, Okada S	消化器外科
year note Selected Articles 主要病態・主要疾患の論文集 2008-2009: 1603-1619, 2008	睡眠障害の診断と治療	内山 真	精神神経科
臨床睡眠学 66: 11-20, 2008	睡眠障害の概念と国際分野	内山 真	精神神経科
東京精神医学会誌 25(1): 21-25, 2008	Huntington病に伴う幻覚妄想状態にRisperidoneが奏効した1例	降旗隆二、久保英之、鈴木正泰、松崎大和、内山 真	精神神経科
医薬ジャーナル 41(5): 110-114, 2008	睡眠薬の適正使用と服薬指導	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
時間生物学辞典：114-115, 2008	コンスタントルーチン	内山 真	精神神経科
時間生物学辞典：116-117, 2008	脱同調プロトコール	内山 真	精神神経科
時間生物学辞典：118-119, 2008	時間隔離実験	内山 真、他	精神神経科
時間生物学辞典：310-311, 2008	睡眠薬とリズム	内山 真	精神神経科
SLEEP31 (5)：645-652, 2008	Associations of Usual Sleep Duration with Serum Lipid and Lipoprotein Levels	Makoto Uchiyama, et al	精神神経科
臨床麻酔32(5)：885-893, 2008	睡眠を科学する	内山 真	精神神経科
気分障害：253-260, 2008	時間生物学	内山 真、他	精神神経科
精神医学対話：373-392, 2008	睡眠障害 生物学的背景を中心に	内山 真	精神神経科
脳を知る・創る・守る・育む10：93-124, 2008	脳を守る	内山 真	精神神経科
最新精神医学 13(4)：347-353, 2008	高齢者の睡眠障害	内山 真	精神神経科
ねむりと医療 1(1)：巻頭言, 2008	『ねむりと医療』の創刊にあたって	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ねむりと医療1(1): 1-4, 2008	不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム	内山 真	精神神経科
ねむりと医療1(1): 40-42, 2008	ねむりの達人がお応えしますー Q&A 第1回 高齢者の睡眠障害にどう対応するか?	内山 真	精神神経科
ねむりと医療1(1): 43-45, 2008	睡眠不足が代謝と内分泌機能に与える影響	内山 真	精神神経科
SLEEP AND BIOLOGICAL RHYTHMS6(3): 127, 2009	PREFACE	Makoto Uchiyama	精神神経科
心療内科12(5): 341-344, 2008	睡眠障害ー総論	内山 真	精神神経科
日本医師会雑誌 137(7): 1393-1406, 2008	眠りと健康をめぐって	内山 真、他	精神神経科
日本医師会雑誌 137(7): 1412-1416, 2008	睡眠障害の診断の進め方	内山 真	精神神経科
メディコピア 49 睡眠と健康: 72-85, 2008	健康的な睡眠のために	内山 真	精神神経科
臨床のあゆみ 78: 21, 2008	ナルコレプシーの正確な診断と最適な治療にむけて	内山 真	精神神経科
環境と健康21(4): 404-414, 2008	脳を休ませるしくみ	内山 真	精神神経科
こころの科学143: 32-39, 2009	睡眠薬の使用法とそのはたらき	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別冊 日本臨牀 呼吸器症候群(第2版)(II): 524-526, 2009	睡眠時パニック障害	今野千聖、鈴木正泰、金野倫子、 高橋 栄、内山 真	精神神経科
別冊 日本臨牀 呼吸器症候群(第2版)(II): 548-552, 2009	夜驚症と睡眠時遊行症	金野倫子、内山 真	精神神経科
社会精神医学: 246-257, 2009	睡眠障害	内山 真	精神神経科
The Mainichi Medical Journal 5(3): 145, 2009	高齢者の睡眠覚醒障害に光とメラトニンを	内山 真	精神神経科
ペインクリニック 30(5): 626-633, 2009	痛みと睡眠	内山 真	精神神経科
医療従事者のための補完・代替医 療: 328-334, 2009	光療法	内山 真	精神神経科
Sleep Med Clinica 4: 195-211, 2009	Non-24-Hour Sleep-Wake Syndrome in sighted and Blind Patients	Makoto Uchiyama, Steven W. Lockley	精神神経科
Psychiatry Research 168: 57-66, 2009	Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population	Yukihiro Nagase, Makoto Uchiyama, Yoshitaka Kaneita, Lan Li, Tatsuhiko Kaji, Sakae Takahashi, Michiko Konno, Kazuo Mishima, Toru Nishikawa, Takashi Ohida	精神神経科
総合病院精神医学 21(1): 24-31, 2009	高齢者のレム睡眠行動障害	内山 真、金野 倫子	精神神経科
BRAIN and NERVE 61(5): 549-557, 2009	Restless legs syndrome の治療	金野 倫子、内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を入力すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroscience Research 63: 115-121, 2009	Time estimation during sleep relates to the amount of slow wave sleep in humans	Makoto Uchiyama, et al	精神神経科
最新精神医学 14(5): 449-458, 2009	睡眠薬の効用と限界	内山 真	精神神経科
実験 治療 659: 46-51, 2009	睡眠障害	内山 真	精神神経科
Curr Med Res Opin 24: 307-17, 2008	An international survey of sleeping problems in the general population.	Leger D, Poursain B, Neubauer D, Uchiyama M	精神神経科
Schizophr Res 104: 153-64, 2008	Association of SNPs and haplotypes in APOL1, 2 and 4 with schizophrenia.	Takahashi S, Cui YH, Han YH, Fagerness JA, Galloway B, Shen YC, Kojima T, Uchiyama M, Faraone SV, Tsuang MT	精神神経科
J Neurosci 28: 10145-50, 2008	Sleep accelerates the improvement in working memory performance.	Kuriyama K, Mishima K, Suzuki H, Aritake S, Uchiyama M	精神神経科
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 259: 186-94, 2009	Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia: A large sample study using a newly developed digital computerized system.	Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoda M, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Katayama S, Kawahara R, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, Motoshita M, Ohta K, Uchiyama M, Kojima T	精神神経科
脳と精神の医学 20(1): 35-41, 2009	統合失調症の中間表現型としての探索眼球運動	高橋 栄, 小島卓也, 鈴木正泰, 内山 真	精神神経科
Pharma Medica 27(6): 99-107, 2009	プロナンセリンの今後の可能性を探る	高橋 栄、他	精神神経科
Psychiatry Clin Neurosci 62: 396-403, 2008	The relationship between exploratory eye movement, P300, and reaction time in schizophrenia.	Takahashi S, Tanabe E, Sakai T, Matsuura M, Matsushima E, Obayashi S, Kojima T.	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychiatry Clin Neurosci 62:487-493, 2008	Impairments of exploratory eye movement in schizophrenic patients and their siblings.	Takahashi S, Tanabe E, Yara K, Matsuura M, Matsushima E, Kojima T	精神神経科
Cardiac Practice20(1)21-25, 2009	【睡眠時呼吸障害と循環器疾患】睡眠呼吸障害の病態とその診方	赤柴恒人	睡眠センター
Cardiac Practice20(1)21-25, 2009	【睡眠時呼吸障害と循環器疾患】睡眠呼吸障害の病態とその診方	赤柴恒人	睡眠センター
最新医学 64(1) 42-49, 2009	【睡眠時無呼吸-最新の進歩と展望-】CPAP 治療と治療アドヒランス (adherence) 向上の工夫	赤柴恒人	睡眠センター
診断と治療 97(1) 139-147, 2009	【実地医家のための呼吸管理】臨床場面別の呼吸管理 睡眠時無呼吸症候群	赤柴恒人	睡眠センター
日大医学雑誌 68(1) 67-72, 2009	睡眠時無呼吸症候群の臨床	赤柴恒人	睡眠センター
日本臨床 S 491-492, 2009	【呼吸器症候群(第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】呼吸不全、換気異常 睡眠呼吸障害 上気道抵抗症候群	赤柴恒人	睡眠センター
Respirology14(1) 1-13, 2009	Predicting optimal continuous positive airway pressure in Japanese patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Akahoshi T, Akashiba T, et. al	睡眠センター
呼吸器科 15(3) 208-214, 2009	【呼吸器疾患診療ガイドラインのエッセンス】睡眠時無呼吸症候群 診断と治療のためのガイドライン	赤柴恒人	睡眠センター
月刊ジブメント 2(6) 92-95, 2009	【COPD 今注目される呼吸器疾患】COPD の非薬物療法 生活指導およびリハビリテーション	赤柴恒人	睡眠センター
呼吸と循環 57(8) 851-855, 2009	Current Opinion COPDにおける睡眠呼吸障害	赤柴恒人	睡眠センター
形成外科	生体肝移植術における肝動脈再建	竹内正樹	形成外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Osteoporosis Japan	脊椎インスルトウルメンテーションを併用した腰椎固定術後の閉塞骨粗鬆症による椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科
Osteoporosis Japan	脊椎インスルトウルメンテーションを併用した腰椎固定術後の閉塞骨粗鬆症による椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科
Photomedicine and Laser Surgery	The minimum influence for murine nonmamal joint tissue by novel bactericidal treatment and photodynamic therapy using na-pheophoride a for septic arthritis.	Iriuchishima T	整形外科
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy	Intercondylar roof impingement pressure after anterior cruciate ligament reconstruction in a porcine model	Iriuchishima T	整形外科
Anticancer Research	A comparative study for wide excision of malignant tumors distal to S2	00osaka S	整形外科
Orthopedics	Subsidence of metal interbody cage after posterior lumbar interbody fusion with pedicle screw fixation.	Tokuhashi Y	整形外科
Orthopedics	Radiographic evaluation of osteoporotic spines using cortical bone of the lumbar pedicle	Matsuki K	整形外科
Spine	Outcome of treatment for spinal metatases using scoring system for preoperative evaluation of prognosis.	Tokuhashi Y	整形外科
Endocrine.	Haplotype-based case study of human CYP4A11 gene and cerebral infarction in Japanese subject.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Journal of Hypertension.	Association of TNFRSF4 gene polymorphisms with essential hypertension.	Mashimo Y, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Endocrine Journal.	Case-control study of the role of the Gitelman' s syndrome gene in essential hypertension.	Aoi N, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Am J Hypertens.	Association between fatty acid binding protein 3 gene variants and essential hypertension in humans.	Ueno T, Soma M 他	総合科 (内科担当)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res.	A haplotype-based case-control study examining human extracellular superoxide dismutase gene and essential hypertension.	Naganuma T, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Hypertens Res.	Haplotype-based case-control study of the human CYP4F2 gene and essential hypertension in Japanese subjects.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Am J Hypertens.	A haplotype of the CYP4F2 gene is associated with cerebral infarction in Japanese men.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Mol Genet Metab.	A haplotype of the CYP4F2 gene associated with myocardial infarction in Japanese men.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Hereditas.	Association of extracellular superoxide dismutase gene with cerebral infarction in women: a haplotype-based case-control study.	Nakayama T, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Blood Purification 26, 196-203, 2009	Circannual rhythm of laboratory test parameters among chronic haemodialysis patients	Mitsuru YANAI	総合科 (内科担当)
Int Immunopharmacol.	Inhibitory effects of parthenolide on antigen-induced microtubule formation and degranulation in mast cells.	Miyata N, Gon Y	総合科 (内科担当)
Respirology.	Analysis of gene expression in human bronchial epithelial cells upon influenza virus infection and regulation by p38 mitogen-activated protein kinase and c-Jun-N-terminal kinase.	Hayashi S, Jibiki I, Asai Y, Gon Y	総合科 (内科担当)
Allergol Int.	Toll-like receptors and airway inflammation.	GON Y	総合科 (内科担当)
Allergol Int.	Viral infection in asthma.	Hashimoto S, Matsumoto K, Gon Y	総合科 (内科担当)
Endocrine.	Human Uncoupling Protein 2 and 3 Genes Are Associated with Obesity in Japanese.	Kosge K 他	総合科 (内科担当)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肥満研究 14 : 36-41 ; 2008. 2	小児肥満における体組成と安眠時エネルギー消費量	黒森 由紀, 中山 弥生, 岩田富士彦, 岡田 知雄, 原田研介, 麦島 秀雄, 斎藤恵美子, 原 光彦	小児科
日本小児腎臓病学会雑誌 21 (1) ; 2008. 4	糸球体 charge barrier 機能の再検討	斎藤 宏, 高橋 昌里, 土屋 達行, 長田 道夫, 楊国昌, 根東 義明, 松山 健, 関根 孝司, 五十嵐 隆	小児科
心臓 40 : (6) 513-517; 2008. 6	小児期のメタボリックシンドロームと心血管病変	岡田 知雄, 安部百合子, 金丸 浩, 鮎沢 衛, 原光彦	小児科
日大医学雑誌 68 (1) : 11-15; 2008	低分子量ヘパリン薬 (ダルテパリン) を併用した川崎病治療法開発の予備的検討	稲毛 康司, 大島 暢, 斎藤 勝也, 長谷川真紀, 林利佳, 阿部 修, 石川 央朗, 吉野 弥生, 橋本 光司, 淵上 達夫, 宮下 理夫, 金丸 浩, 鮎沢 衛, 麦島 秀雄	小児科
日大医学雑誌 67 (6) : 356; 2008	進行性腎障害の治療のための TGF- $\beta$ 1 プロモーターを標的とした遺伝子制御薬であるピロールイミダゾールポリアミドの開発	松田 裕之, 福田 昇, 上野 高浩, 田平 佳子, 菅 弘人, Wen Zhang, 板東 俊和, 杉山 弘, 齊藤 穎, 松本 統一, 麦島 秀雄, 芹江 和夫	小児科
Archives Disease of Childhood Fetal and Neonatal Edition 93 : 14-19; 2008. 1	Umbilical cord milking reduces the need for red cell transfusions and improves neonatal adaptation in infants born at less than 29 weeks' gestation: a randomised controlled trial	Hosono S, Mugishima H, Fujita H, Hosono A, Minato M, Okada T, Takahashi S, Harada K	小児科
Circulation Journal 72 : 274-280; 2008. 2	Association of Sinus Node Dysfunction, Atrioventricular Node Conduction Abnormality and Ventricular Arrhythmia in Patients With Kawasaki Disease and Coronary Involvement	Sunitomo N, Karasawa K, Taniguti K, Ichikawa R, Fukuhara J, Abe O, Miyashita M, Kanamaru H, Ayusawa M, Harada K	小児科
Clin Pediatr Endocrinol 17 (4) : 113-119; 2008. 5	Pathogenic Characteristics at Diagnosis in Young Children with Type 1 Diabetes Presenting Prior to 5 Years of Age	Urakami T, Suzuki J, Yoshida A, Saito H, Wada M, Takahashi S, Mugishima H	小児科
Journal of Perinatology 28 : 335-340; 2008. 5	Low-density lipoprotein profile changes during the neonatal period	Fujita H, Okada T, Inami I, Makimoto M, Hosono S, Minato M, Takahashi S, Mugishima H, Yamamoto T	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を入力すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Pediatrics (3) : 202-205; 2008. 8	The relationship between drug treatment and the clinical characteristics of febrile seizures	Haruyama W, Futigami T, Noguti Y, Endou A, Hashimoto K, Inamo Y, Fujita Y, Takahashi S, Mugishima H	小児科
World Journal of Pediatrics (3) : 202-205; 2008. 8	The relationship between drug treatment and the clinical characteristics of febrile seizures	Haruyama W, Futigami T, Noguti Y, Endou A, Hashimoto K, Inamo Y, Fujita Y, Takahashi S, Mugishima H	小児科
Pediatrics International 50:306-311; 2008	Effect of hemoglobin on transfusion and neonatal adaptation in extremely low-birthweight infants	Hosono S, Mugishima H, Kitamura T, Imai I, Fujita H, Hosono A, Minato M, Okada T, Takahashi S, Harada K	小児科
DIABETES RESEARCH AND CLINICAL PRACTICE 473-476; 2008	Incidence of children with slowly progressive form of type 1 diabetes detected by the urine glucose screening at schools in the Tokyo Metropolitan Area	Urakami T, Suzuki J, Yoshida A, Saito H, Mugishima H	小児科
Pediatrics International 50 : 640-643; 2008	Predictive factors for survival for out-born infants born between 23 and 24 weeks of gestation in the post-surfactant era: Fourteen years' experience in a single neonatal care unit. 1987-2000	Hosono S, Ohno T, Kimoto H, Shimizu M, Takahashi S, Harada K	小児科
Biol Pharm Bull 31 (3) : 391-394; 2008. 3	Treatment of Ewing's Sarcoma Using an Antisense Oligodeoxynucleotide to Regulate the Cell Cycle	Asami S, Chin M, Shichino H, Yoshida Y, Nemoto N, Mugishima H, Suzuki T	小児科
Pediatrics International 50 : 235-237; 2008	Hypercalcemia induced by 13 Cis-retinoic acid in patients with neuroblastoma	Mugishima H, Chin M, Suga M, Shichino H, Ryo N, Nakamura M, Harada K	小児科
Heart Rhythm 5 : 496-7; 2008	Adenosine Triphosphate Terminates Bidirectional Ventricular Tachycardia in a Patient with Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia	Sunitomo N, Sakurada H, Mugishima H, Hiraoka M	小児科
Heart Rhythm 5:498-499:2008	Calcium channel blocker and adenosine triphosphate terminate bidirectional ventricular tachycardia in a patient with Andersen-Tawil syndrome	Sunitomo S, Shimizu W, Taniguti K, Hiraoka M	小児科
Intensive Care Med 34:109-115; 2008	Hyperglycemia and lipopolysaccharide decrease depression effect of interleukin 8 production by hypothermia: an experimental study with endothelial cells	Noda A, Kinoshita K, Sakurai A, Matsumoto T, Mugishima H, Tanjho K	小児科
Journal of Cellular Physiology 215 (1) : 210-222 : 2008	Mature Adipocyte-derived dedifferentiated fat cells exhibit multilineage potential	Matsumoto T, Kano K, Kondo D, Fukuda N, Iribe Y, Tanaka N, Matsubara Y, Sakuma T, Satomi A, Otaki M, Ryu J, Mugishima H	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biological and Pharmaceutical Bulletin 36 (6) : 1071-1074; 2008	Useful markers for detecting minimal residual disease in cases of neuroblastoma.	Ootsuka S, Asami S, Sasaki T, Yoshida Y, Nemoto N, Shichino H, Chin M, Mugishima H, Suzuki T.	小児科
JOURNAL OF PERINATAL MEDICINE 37 : 79-84; 2009	A role of end-tidal CO2 monitoring for assessment of tracheal intubations in very low birth weight infants during neonatal resuscitation at birth	Hosono S, Inami I, Fujita H, Minato M, Takahashi S, Mugishima H	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

計 232 件

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 澤 充
管理担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 薬剤部長：丹正 勝久 医学部庶務課長：立石 重美

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課	病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルしており、外来資料については5年間、入院資料については永久保存を原則としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療の研修の実績	当該診療科
	閲覧実績	病歴課
	紹介患者に対する医療提供の実績	庶務課 医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 医事課 薬剤部
体制確保の状況及び第1条の11各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための方策の実施状況	薬 剤 部
		従事者に対する医薬品の安全使用のための責任者の配置状況	庶 務 課 薬 剤 部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬 剤 部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶 務 課
		従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長 佐藤 晴男
閲覧担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行 会計課長：大野 修平 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 医学部庶務課長：立石 重美
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	1件
	その他	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	64.64%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		22,119人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,204人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6,890人
	D：初診の患者の数		55,381人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて  
小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第1条の11号各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属部員：専任 (1) 名 兼任 (10) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定、平成16年1月改定、平成19年9月改訂、平成20年9月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定、平成17年11月改訂）</li> <li>・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。</li> <li>・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定、平成18年9月改訂）</li> </ul> <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定、10月改定、平成14年4月改定、平成16年1月改定、平成17年11月改訂、平成18年9月改訂）</li> <li>・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定、平成16年1月改定、平成17年11月改定）</li> </ul> <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インシデント・アクシデントレポート運用規則（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定、平成18年9月改定、平成19年9月改定、平成20年9月改訂）</li> <li>・ インシデント・アクシデントレポートフローチャート（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定）</li> <li>・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定、平成14年4月改定、平成19年9月改定）</li> </ul> <p>⑤ 患者相談窓口運用要項（平成15年10月制定、平成16年1月改定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者相談窓口フローチャート</li> </ul>	

⑥ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は副病院長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部、中央放射線部、臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。</p> <p>① 平成20年6月9日（月）、10日（火）、18日（水）、20日（金） ※第1回医療安全講習会 「苦情（クレーム）事例報告」「身体拘束（抑制）ガイドラインについて」「持参薬の手順書について」</p> <p>②平成20年11月11日（火）、13日（木）、20日（木）、12月8日（月） ※第2回医療安全講習会 「医療手技マニュアルについて」「ダブルバック（トリプルバック）の隔壁開通について」「個人情報保護法に関する留意事項について」「セクシャルハラスメントについて」</p> <p>③平成21年3月10日（火）、12日（木）、13日（金）、16日（月） ※第3回医療安全講習会 「誤投薬防止WGからの報告」「人工呼吸器指示確認書・人口鼻について」「点転倒事故の傾向について」「患者満足度調査の集計結果について」</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備： <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有</span> 無</p> <p>・インシデント・アクシデント・レポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。</p> <p>②提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディファックスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事件事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。</p> <p>③24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。</p> <p>④医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。</p> <p>⑤専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。</p> <p>⑥「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。</p> <p>⑦可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「緊急症例検討会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	① 有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>・ 基本理念，感染対策の基本方針，感染防止対策委員会について，職員研修について 感染症発生時の報告体制，感染症発生時の対応，閲覧について，その他</p>	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ 院内の感染症情報の共有，感染予防講習会の準備と開催，微量採血のための実例器具の 取扱いについて，採痰ブースの設置及び運用について，ポケットマニュアルの第3版の 改正について，手洗い評価ラウンドの実施，事例検討会，新型インフルエンザ対策（対 応指針）について</p>	
③従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>・ 感染対策指針について，標準予防策-手指衛生-，感染経路別予防策-院内表示の統一 について-，検体の取り扱い-検査結果と治療について-，職業感染防止対策について</p> <p>・ 院内病原菌検出状況と感染対策につて，感染対策問題集，新型インフルエンザの現況 咳エチケットについて</p>	
④感染症の発生状況の報告その他院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ① 有 ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>①医療安全ポケットマニュアル第4版から第5版への修正</p> <p>・ 当病院で届出が必要な感染症（感染症の分類）</p> <p>「届出フローチャート」に従い，発生時の報告を実施している。</p> <p>「感染症アウトブレイク時の報告・対応」に従い運用している。</p> <p>②標準予防策の基本である手指衛生について啓蒙活動の強化を図った。</p> <p>・ ICLNによる各部署の手洗い評価を6～9月にチェッカー（ブラックライト）とチェック リストを使用して評価を行った。</p> <p>・ 手洗い強化月間を設け，ICCラウンドで手洗いの評価を実施した。</p> <p>・ 手指衛生マニュアルの配布，手洗いのタイミングや方法を記載したポスターの掲示</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持参薬の手順書について</li> <li>・ ダブルバック（トリプルバック）の隔壁開通について</li> <li>・ アクシデントから学ぶ誤投薬防止のポイント</li> </ul>	
<p>③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <p>・ 手順書の作成 （ ① 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤管理委員会に手順書を検討・改訂し、医療安全管理委員会で承認された。手順書に従い病棟等における医薬品の管理状況について、巡回・調査・改善を行った。</li> </ul>	
<p>③医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ① 有 ・ 無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デュロテップパッチからのデュロテップMTへの採用切り替えについて</li> <li>・ メルビン錠とヨード造影剤の相互作用・禁忌について</li> <li>・ PTPシート誤飲防止対策について</li> <li>・ 各部門への情報提供並びに情報確認表の提出による周知を行った。</li> </ul>	



医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の有効性・安全性に関する事項</li> <li>・医療機器の使用法に関する事項</li> <li>・医療機器の保守点検に関する事項</li> <li>・医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項</li> <li>・医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li> <li>・新しい医療機器の導入時の研修</li> <li>・ライナックの構造，保守管理，について</li> <li>・放射線発生装置の安全な取扱いについて</li> </ul>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 ( ④・無 )</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保守点検の計画・実施表作成</li> <li>・定期点検（各医療機器マニュアルに沿った期間で行う）</li> <li>・日常点検（使用前，使用后，修理，使用中等）の実施及び記録</li> <li>・ライナック：定期点検 年4回 メーカーに依頼</li> <li>・RALS : 定期点検 年4回 メーカーに依頼</li> </ul>	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ( ④・無 )</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟巡視を行い，各病棟における医療機器の相談を受け，操作方法の説明，勉強会の依頼，安全情報の伝達を行なっている。また随時安全情報の伝達を医療安全管理室と連携を取りながら行い，安全啓蒙のポスター，チラシ，医療機器ポケットマニュアル等を配布している。</li> <li>・メーカーから報告されている改修・注意事項に従い適宜改修等を行い治療計画装置では安全使用を図るため最新のソフトにバージョンアップを行っている。</li> </ul>	